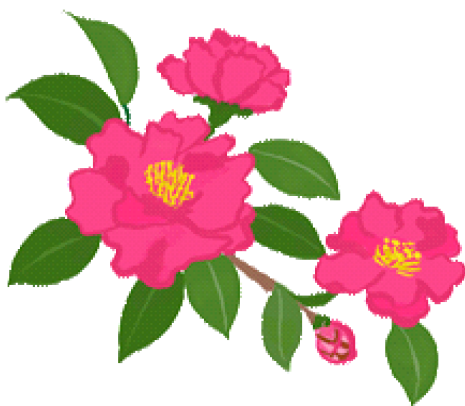


宿縁

十二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗 本願寺派 中原寺
TEL 0477-372101
FAX 0477-372102

あなたは「自力」 それで大丈夫か？



俳句の季語で十二月は「極月」というようですが、今年もまた誰もが月日の経つ速さに驚かすおれませぬ。しかしその驚きは人によりまちまちではありませんが、大方は今年もまた空しい日々であったということではないでしょうか。

昨日も悪く

今日も悪く

明日もまた

いよいよ悪いのである

これは住岡夜晃（一八九五〜一九四九）師の言葉ですが、その五四年の生涯は求道と教

千葉市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗 本願寺派 中原寺
TEL 0477-372101
FAX 0477-372102

育のために捧げられた一生でした。

この衝撃的言葉を味わう前に夜晃先生とはどういうお人であったのかを述べます。

師は広島の在家に生まれ、仏教を深く研鑽しましたが学者とはなりませんでした。鋭いものの方と時代への洞察はありましたが単なる思想家ではなかったのです。だから仏教を単に研究的対象として勉強することはできなかったのです。みずから仏教によって救われ、仏教によって終生自己を照らされて生きてゆきました。また、人を単なる人として対象的に見ることはできず、

いかなる人にも自己の内に燃える真実の火（本願の信）を伝えようと努めずにおれなかったのです。真実の宗教に対する深い肯きと、親鸞聖人の教えに対する熱い味いは、人生の悩みに真剣に立ち向かおうとする人々に今もなお多くの感動を与えています。そして今も続く広島の「真宗光明団」の礎となった人です。

さて、世間にはさまざまなことばが使われます。それは人間にとってことばは生活の手段として使われるからです。ことばはそれ自体を指すものではなく、そのものを想像させるだけです。だから道具であることばには限界があります。限界があるけれども、ことばなしには何も表現できないので、とりあえずことばによって名づけることを「仮名（けみょう）」といいます。例え

ばことばの「月」は、月そのものではありません。「月」ということばは月そのものを差す指でしかありません。

しかし、指が何を指したかによって、わたしたちが何を語るかが決定されます。つまりどういうことばを語るかによって、わたしたちが何を語るかが決まります。何を語るかが決まるということは、その態度が決まるということです。態度が決まるということは、どういう世界を生きるかが決まるといことです。

そのようなことで常日頃の常識とすることばの感覚そのまま「昨日も悪く 今日も悪く 明日もまた いよいよ悪いのである」を理解しようとすれば、はなはだ難解なことばです。苦しみや悩みに陥った人にとって思い通りにいかなかった昨日もそして今日も悪いのは分かるが、明日は頑張ろう、良い結果を期待していこうとする人間の常識からすれば、明日は善くなるであろうと思うのは当たり前です。

でもここは人間の常日頃の常識であくまで理解しようとするのか、そうではなくその常識を超えた真実の世界に触れることを通して考えるかの大きな岐路であります。

人間の眼は絶えず外の現象と比較して自らの立場を取ろうとします。そこには常に他を対象として意識し、分別し、分断化していきますから悪いのは外のせいにして自身の内側に向けることをしないので、どこまでいっても悪いのです。

仏陀釈尊のさとりは「縁起の法」といわれます。縁起とはすべてのものは関係性によって生じ滅するのであり、それは刻々と変化し

ているのだから、「個」という実体はないと教えます。これは真理です。そして心の闇は「無明（むみょう）」というその真理に反する見方、考え方、行動、即ち煩惱のゆえであると指摘します。

親鸞聖人は「無明煩惱しげくして、塵数（じんじゆ）のごとく遍満（へんまん）す」と申され、わたしたちの身心すべてが煩惱に覆われてそこから抜け出す術を知りません。厄介なのはそうした自分自身の姿を知ることができないのです。暗黒はどんなに積み重ねても暗黒ですから自身が暗黒の中をさまよっていることを知ることができません。暗黒に光が差さない限り、暗黒から暗黒へと永遠に続くしかありません。それを、「明日もまたいよいよ悪いのである」というのです。

こうした人間（私）の正体に気づくのは、わたしを照らす光によって知らされるので、その光に遇うことが絶対条件です。その光こそ釈尊が覚られた真理、南無阿弥陀仏の救いです。そしてその真理に出遇う道として親鸞聖人は自力を捨てて他力に帰することを明確にされたことばが、「自力のころをひるがえして他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐるなり」（歎異抄）です。

「自力のころ」とは日ごろの心、いつも持っている心、人間の基本的な心であり、その自力の心がひっくり返される、打ち砕かれるところを回心（えしん）といいます。その転回されるはたらきかけを他力といい、如来の本願力といい、私の内側からの呼びかけです。「たのむ」とは帰依であり、大きなものの呼びかけに帰って、それをよりどころとして持つ人生こそ明るい道と示されました。

「自力のころ」とは日ごろの心、いつも持っている心、人間の基本的な心であり、その自力の心がひっくり返される、打ち砕かれるところを回心（えしん）といいます。その転回されるはたらきかけを他力といい、如来の本願力といい、私の内側からの呼びかけです。「たのむ」とは帰依であり、大きなものの呼びかけに帰って、それをよりどころとして持つ人生こそ明るい道と示されました。

「自力のころ」とは日ごろの心、いつも持っている心、人間の基本的な心であり、その自力の心がひっくり返される、打ち砕かれるところを回心（えしん）といいます。その転回されるはたらきかけを他力といい、如来の本願力といい、私の内側からの呼びかけです。「たのむ」とは帰依であり、大きなものの呼びかけに帰って、それをよりどころとして持つ人生こそ明るい道と示されました。

「自力のころ」とは日ごろの心、いつも持っている心、人間の基本的な心であり、その自力の心がひっくり返される、打ち砕かれるところを回心（えしん）といいます。その転回されるはたらきかけを他力といい、如来の本願力といい、私の内側からの呼びかけです。「たのむ」とは帰依であり、大きなものの呼びかけに帰って、それをよりどころとして持つ人生こそ明るい道と示されました。

【寺灯雑記】

○帰敬式を受式して法名を授与される

11/15・16

毎年築地本願寺の報恩講法要の折りに行われる帰敬式(ご門主より「おかみそり」を頂戴し、仏弟子としての法名を授かる儀式)に当寺から左記の10名の方々が受式されました。おめでとうございます。

*伊藤昭代さん *木村アツ子さん

*小泉博生世さん *是木修一さん

*是木志津子さん *酒井昭枝さん

*高木滋さん *高木睦子さん

*田邊永子さん *本田克美さん

尚、両日で127名が前門様からおかみそりをいただきましたが、16日の帰敬式では受式者を代表して小泉博生世さんが法名を授与されました。

どうぞ皆様には仏弟子となった自覚のもとにお聴聞に心がけくださるよう念じます。

○報恩講の夕べで和の演奏を楽しむ

11/20・21

浄土真宗において最も大切な行事とされる報恩講法要が2日間にわたって勤められました。20日の夕方には山門から和紙に描かれた絵灯籠が参道に並ぶ中、聞法会館にて5時から逮夜法要に先立って「親鸞聖人を讃える音楽の夕べ」があり、「箏曲と尺八の演奏」を楽しみました。出演いただいたのは是木志津子さんのお仲間「アンサンブル友」の5人の皆さん。尺八の宮田金雄さんの解説とともに箏曲の合奏の調べを堪能しました。六段を始め、赤とんぼ、ゆりかごの唄、夕日、旅愁、さんさんさくらなど、みんなと一

緒に唄って心温まる雰囲気になりました。引き続き本堂では逮夜法要に初夜礼讃偈を唱和、ご住職がかすかな灯りの下で親鸞聖人御一代を記した「御伝鈔」の一部を拝読されました。

21日はご晨朝、日中法要、ご満座法要と続き、午前と午後の二回に分けて法話がありました。布教使である富岡市蓮照寺の松岡満優師から「人生を貫く念仏―愛別離苦を超えて」と題し、ご自身のお子さんを5歳で亡くされた悲しみの体験を通して、お念仏による救いの確かさと有り難さを味わったこととお話され、深い感動をいただきました。

両日にわたり天候に恵まれましたが、おとき作りや接待、諸作業にお手伝いをいただいた方々のご苦勞に御礼申し上げます。

○門信徒会役員会を開く

12/2

今年度最後の役員会は14名が出席して開かれました。

議題としては10月に行なわれた文化講演会とご旧跡参拝旅行の決算報告。来年度の行事日程案。役員任期満了に伴う次期の人選等が協議されました。

行事日程の中で主な検討課題となっていた夏の門信徒ファミリーパーティーの時期については来年も夏に実施する方向で、また夏休み子ども合宿については同じ時期に東京教区北ブロックの門徒子弟の合宿が千葉県内で行われることから当寺での単独開催を見送ることになりました。任期満了を迎える現門信徒会役員につい

ては次年度少し入れ替わる予定です。新体制は明年1月21日の新年度第1回役員会で委嘱されます。

○和やかに壮・婦合同年末懇親会

12/9

恒例の壮年会・婦人会合同の年末懇親会は松戸の高塚新田にある「一幸」を会場に夕方6時から開催されました。

寒気の増した日でしたがお寺への送迎マイクロバスが出て、参加者31名(壮年会16名、婦人会15名)がそれぞれの1年を振り返りながらお酒の量も入り美味しい食卓を囲みながら賑やかに歓談しました。

尚、これに先立ってお寺で開かれた壮年会役員会では明年の例会テーマを「日常語になった仏教用語」とすることになりました。

また引き続きの法座では12月の法語カレンダーから「慚愧」についてのご住職からの法話を受けて出席者11名による話し合いを致しました。

○聞法会館に集う親子の子育てサロン

12/11

いちかわ社協がすすめる「子育てサロン」の会場として今年7月から聞法会館が利用されていますが、この日も11組23人の親子が集まりました。子供の年齢は0歳から3歳くらいの幼児。少子化と子育てに悩む親たちの交換の場として着実な広がりを見せています。

広い空間とたくさん遊具が好評で、島田智恵子さんを中心としたサポートに当寺の婦人会の有志がお手伝いをしています。

【法要・行事・法座の案内】

☆元旦修正会

*一月一日(祝) 朝八時

- ・おつとめ 正信偈六首引き
- ・元旦章拝読
- ・年頭法話 住職、前任職
- ・ご流盃の儀

(京風お雑煮接待、互礼会)

新年を迎え、仏祖に礼拝し、心新たにお念仏とともに報恩生活の第一歩をふみだす法会です。ご家族皆さままでお参りください。

○正像末和讃に学ぶ

十二月二十三日(土) 三時

○山門参道清掃奉仕

十二月二十八日(木) 十時

○いのちの居場所を考える会

一月十一日(木) 十時半

○婦人会総会、新年会

一月十三日(土) 十一時

○常例法座

一月二十一日(日) 一時

○門信徒会役員会

一月二十一日(日) 三時半

○壮年会総会、新年会

一月二十八日(日) 二時半

【十二月の掲示板のことは】

自分の命だけでなく、あなたの周りに見える命も大切にしよう

【平成30年回表】

- 1周忌(H29年) ・3回忌(H28年)
- 7回忌(H24年) ・13回忌(H18年)
- 17回忌(H14年) ・25回忌(H6年)
- 33回忌(S61年) ・50回忌(S44年)